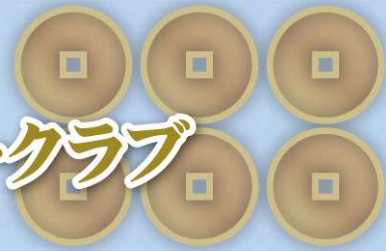




2018-19年度
国際ロータリー会長
バリー・ラシン

第2600地区ガバナー 伊藤 雅基

国際ロータリー第2600地区
上田六文銭ロータリークラブ
Rokumonsen Rotary Club



【事務局】

〒386-0025 長野県上田市天神4-24-1
上田東急REIホテル 3F
TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002
<http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>
《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30
《例会場》上田東急REIホテル 2F
《創立》1997年2月18日

●会長 水野 泰雄 ●幹事 小嶋 修一 ●会報委員長 柄澤 堯 ●副委員長 大久保昌宏 ●委員 西澤 文登/渡邊 章貴

例会日誌

- 司 会 松澤 一志君
- 開会点鐘 水野 泰雄君
- 斉 唱 『我等の生業』
- ラッキー賞
提供者 水野 泰雄君
イタリアワイン 赤白



生川 秀樹君

- プログラム クラブアッセンブリー 新委員会

各地の戦国大名や領主たちと見比べて、なぜ彼ら三英傑が天下を取って、その他の大名や領主たちは天下を取れないのか、という視点から見ると、思い当たることがあります。それは何かというと「一地点への固執がない」ということではないかと思えます。織田信長も、豊臣秀吉も、徳川家康も、尾張国や三河国、つまり現在の愛知県の出身です。でも「さあ天下を取りましょう」という時に、自分が生まれ育った場所、もしくは長らく一族が拠点としていた場所を「ここを拠点に制覇していこう」とは考えずに、どんどん目的に応じて拠点を移しています。例えば、織田信長は最初は清洲城にいましたが、尾張国から複数の国を支配するにあたり、美濃国（岐阜県）の稲葉山城（岐阜城）に移ったり、近江国（滋賀県）の安土城に移ったりと場所を変えて楽市楽座のような拠点づくりをしました。その家臣だった豊臣秀吉は、近江国の長浜（長浜市）を与えられたら、そこを発展させ全国を統一するために大阪城を建てました。徳川家康は最初は三河国を拠点にしてましたが、豊臣秀吉から江戸の田舎へ左遷されると、そこを利便性のよい都市に変え幕府まで開き、会長職（大御所～この言葉好きです！）時代は駿河国（静岡県）で指揮を取りました。

「一所懸命」という言葉があるように、武士にとっては自分の領地は命より大事で、いかにその地を守るかということに、各地の大名や領主たちは必死になっています。つまり、今の拠点をいかに守るかという発想です。あの大河ドラマ「真田丸」を見ても、長野県の小さな領主に過ぎない真田家は、ずっと「真田の里が…」という話ばかりしています。織田信長から現在の拠点を没収されて、「敵の領土を奪って新しい拠点到しろ」と言われた明智光秀は、絶望して本能寺の変を起こしますが、一拠点到こだわる人物は大抵天下が取れません。そもそも、当時は「京都を押さえれば天下が取れる」という考えが

会長挨拶

水野 泰雄君

過日ある例会で「10年ビジョン」の話が出てきました。10年後の会社を考える…変化の激しい現代では10年先など見通せる事など出来ないと思いましたが、大切なヒントを貰いました。「確かな事は、自分自身・社員さんも含めて今より10歳年齢が上がるという事です。」そう、そこを考えると色々なことが見えてきました。そこで、もしもあなたが変化を嫌い、今のままが一番との思いを抱いているようでしたら未来はないかもしれません。

「なぜ真田信繁は敗れ、家康は徳川幕府300年の礎を築けたのか。」戦国時代の三英傑が天下を獲れた理由として、「固執する気持ちがない」ことを挙げられます。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康たち、いわゆる戦国時代の三英傑が天下を取れたのはなぜか、その理由は多くの歴史家に研究されてきました。その性格、家臣団をまとめる経営術、軍略の巧みさなど、いろいろな理由はあります。でも、全国

一般的だったのに、織田信長は安土、豊臣秀吉は大阪、徳川家康は江戸と、三英傑はみんな京都を拠点にしています。その時代や時流に合わせて、利便の良い場所に利便の良い新たな拠点づくりをすればいいわけで、「京都を拠点に」という考え方が一切なかったところが、三英傑の天下を取る視野だったと言えます。

トップに立つ人間がそのような視野を持っているので、その家臣たちは新しい領地替えになっても「次の領地でも実力を発揮しますよ〜」という家臣はいつまでも家名を存続し、今の領地にこだわった家臣は簡単に取り潰しになっていったのでしょう。これは今の時代も同じで、一拠点に固執する人はそれだけ活動の幅が制限され、活躍の広がりがなくなっていきます。「持ち家があるから」「住み慣れているから」という理由でその場所を離れたくなくて栄転を断ったり、そこでしか起業できなかつたりと、その地点に固執する人は小さいままで終わります。今はノマドという言葉が流行っていますが、別にこれは特に新しい概念ではなくて、昔から広い視野を持って広く活躍していく人は流動的に拠点を移し機動的に動いていたのです。能力をしっかり磨き、戦略眼をしっかり持っていれば、いざ固執していた拠点がなくなっても他の地ですぐに立て直してやっつけられます。転勤や左遷でも次の地でさっさと実績を作るし、天災が起きて退去を余儀なくされても、いつまでも打ちひしがれずにさっさと動きます。言葉の通じない外国に行ってもすぐに馴染み、新しい事業領域にもすぐに切り込んでいきます。「どこに行っても働ける」「どこに移っても実績を出せる」という実力を日頃から磨いておき、その流れに対応するばかりか自分からもそんな拠点の変化を起こしてみるという人が、これからも広く活躍していくことでしょう。

逆に、「ここを死守することにこだわっているなあ……」「今の環境に固執しているなあ……」と感じた時には自分の運命はどんどん収束している、という危機感を持たなければなりません。そうはいつでも真田信繁の美学と「一生懸命」が好きな自分は、信州上田Loveです。

今の自分の成長や発展を妨げている「固執」にはどのようなものがあるか〜ノートに書き始めて、その固執を突破するアイデアを考え始めました。

「一所懸命」【イッシュョケンメイ】は、「昔、武士が賜った『一か所』の領地を命がけで守り、それを生活の頼りにして生きたこと」に由来したことばです。これが「物事を命がけでやる」という意味に転じて、文字のほうも「一生懸命」【イッシュョケンメイ】とも書かれるようになりました。今では、「一所懸命」よりも「一生懸命」と表記・表現される場合が多くなっています。

幹事報告

小嶋 修一君

- 1. RI より
 - ・The rotarian 6月号

全会員配布物

- 1. 当クラブ会報 第1022号
- 2. 会長より 今週のことば

出席・ニコニコBOX報告

吉田 穰君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	24	3	0	87.50%
前々回	23	3	1	91.30%

水野泰雄君 5月最後の例会です。来年度のプレスタートです。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 笠原 一洋君 | 柄澤 堯君 | 北村 久文君 |
| 小嶋 修一君 | 松澤 一志君 | 宮原 宏一君 |
| 宮澤 広一君 | 中澤 信敏君 | 西澤 尚夫君 |
| 西澤 文登君 | 生川 秀樹君 | 斉藤恵理子君 |
| 杉山 裕君 | 田中 栄一君 | 山崎 芳雄君 |
| 吉田 穰君 | 清水 一典君 | 合原 亮一君 |

プログラム

クラブアッセンブリー 新委員会



会長 宮澤広一君



幹事 北村久文君



SAA 渡邊章貴君



クラブ強化部長
会員増強委員長杉山裕君



広報情報
水野泰雄君



出席・ニコBOX
吉田穰君



会報 西澤文登君



親睦会場宮原宏一君



奉仕プロジェクト
職業奉仕 清水一典君



国際奉仕 山崎芳雄君



R財団 中澤信敏君